

東北管区理事
榎山 武浩

4月に東北管区理事に就任し、早、半年が過ぎようとしています。が、まさに、今の心境は「歳月人を待たず」という気持ちであります。この限られた2年間という時間を東北6県の代表として大事に務めていかなければなりません。

「東北は1つ」という気持ちをもって、福島から出ておられる久間全曹青会長をバックアップしながら、切磋琢磨し、与えられた任を務めたいと思います。

理事会に3回出席し、管区理事としての責任の重みを感じております。第18期全曹青のスローガンに「いのちの声に耳を澄ます」を掲げ、今期のメイン事業である電話相談事業を、いかに全国の会員諸師方に理解を得て、共に実践していくかが問われると思います。「高下在心」(ものごとなるか否かは心がけ次第)を胸に刻み鋭意実践して参りたいと思います。

関東管区理事
田中 秀一

率直なところ、「青年会」＝「卒業」かな……。と思っていました。この度ご推挙を賜りこのように全曹青の中央の場で活動出来ることに但々感謝する次第です。どうぞ宜しくお願いいたします。

全曹青の事業については、前期

より全曹青は時代に沿った事業運営を目指し理事会等でも話し合っており、全曹青(行事)と言え、一部の人達の集まり」と聞くことが度々であったような気がします。18期では今期のメイン事業と言っても過言ではない「電話相談事業」が、今まで以上に全曹青の会員一人一人が参加出来る事業だと確信致します。

関東では管区大会は行っていないが、年に一度「関東連絡協議会」(ソフトボール大会が主ですが)が開催されていますので、ここに於いては今まで同様、各曹青会との連携を深められるよう努力して参ります。

管区理事インタビュー
「全曹青と管区の架け橋として」(1)

全曹青と管区の架け橋として活躍されている管区理事にインタビューを行いました。内容は、「管区理事に就任されたことについて」、「全曹青の事業について」、「管区大会について」の3点です。次号に渡っての掲載となり、今号は榎山武浩理事、田中秀一理事、杉山雄峰理事、瞿曇浩道理事の4名です。

近畿管区理事
杉山 雄峰

近畿管区理事を拝命して早や半期一年が過ぎ去りました。右も左も判らぬまま、どうにかここまで勤めることができました。全国的情熱と志をもった諸師方とご縁をいただいた事に感謝しております。微力ながら残りの半期も精一杯勤

めてまいります。
基幹事業である「電話相談事業」、ボランティア体制の整備など18期事業は、他人とのつながりが希薄に成り行く現代社会において、人と人の架け橋となることと確信しております。

九州管区理事
瞿曇 浩道

歴代の全曹青の諸事業を観て参りましたが、今回の久間会長の「いのちの声に耳を澄ます」というスローガンの下、基幹事業での「電話相談事業」というものは今の私たち宗侶が避けて通れないもののひとつであり、救いを求めてくる

ものを拒まず共に歩んでいく、という視点は今までにない試みであると思います。少なからず管区に戻り各県曹青の皆様にその趣旨を御理解頂く力添えが少しでもできればと考えております。

また九州の管区大会は今年の6月16日に長崎県唐台寺様で行われました。坐禅、総会、講演会と有意義な一日だったと思います。講演会ではアメリカの禅の現状や問題を学ばせて頂きました。